

1 はじめに

本学級の児童は、明るく活発で、個性豊かな児童が多く、図画工作の時間を楽しみにしている。児童はかいたりつくったりすることを好み、自分の思いのままにダイナミックに表すことを楽しんでいる。5月に行った造形遊び『しんぶんしとなかよし』では、新聞紙を破いたり包んだりしながら思い思いの方法で体全体を使って活動する様子が見られた。できたものを嬉しそうに紹介したり、友達の表し方を取り入れたり、次々につくりかえ、自ら形をつくりだしていくことができていた。一方で、なかなか活動を広げていくことができなかつたり、思うように表現できなかつたりする児童もいた。そこで、児童が深く材料とかかわり、自らつくりだす喜びを味わうことができるよう、材料や場とのかかわり、発想や構想の広がりを意識した授業実践に取り組んだ。

2 指導の実際

(1) 題材1 『つないで つないで』 〈A表現(1)造形遊び・B鑑賞〉

- ①目標
- ア 紙を細長く破いたり切ったりして、つないでいく活動を楽しむことができる。
 - イ 紙をつなぎながら、つくりたい形を思いついたり考えたりすることができる。
 - ウ 手や体全体を働かせながら、思いに合わせて紙のつなぎ方を工夫して表すことができる。
 - エ つないでできた形を友達と見せ合って、紙をつないでできた形の面白さや紙を用いて形づくる楽しさを感じることができる。

②実践内容

- 第1次 切ったり破いたりして細長くした紙を、つなぎ方やつないでできる形を工夫しながら表す。 . . . 2時間
- 第2次 紙をつないでできた形を様々な角度から見て、自分や友達のよさや、つないでできた形の面白さを感じる。 . . . 1時間

(2) 題材2 『すなからうまれる線や形』 〈A表現(1)造形遊び・B鑑賞〉

- ①目標
- ア 砂の感触を味わいながら、砂で表すことを楽しむことができる。
 - イ 砂を散らしたり、集めたりしてできた形からイメージを膨らませ、表したいものを思いついたり考えたりすることができる。
 - ウ 砂を手で散らしたり、集めたりする等、表し方を工夫することができる。
 - エ 砂を使ってできた形を友達と見せ合って、できた形の面白さや砂でかくことの楽しさを感じることができる。

②実践内容

- 第1次 砂を散らしたり、集めたりしてできる形を工夫して表す。 . . . 2時間
- 第2次 砂を使ってできた形を友達と見せ合って、砂で表した形の面白さや砂で表すことの楽しさを感じる。 . . . 1時間

3 結果と考察

(1) 素材のよさや特徴を理解し、生かすための授業づくり

低学年の造形遊びでは、身近な自然物や人工の材料など、様々な材料に触れ、そのよさや特徴を知るための材料体験が重要とされている。そこで、児童が材料とであい、材料に触れ、自分が表したいことを試す時間を十分に確保した。題材1では、事前に行った『しんぶんしとなかよし』での活動をもとに、新聞紙の特徴を知るために自分たちで新聞紙を細長く破く活動を取り入れた。そうすることによって、縦か横かによって裂け方が違うなど、新聞紙の特徴に気付くことができた。題材2では、学校近くにある砂浜の砂を利用した。これまでに経験してきた砂遊びとは違い、薄い色の床に砂を散らしたり集めたりして表していくことで、砂は指で簡単に線が引け、その上に砂をかければ簡単にリセットできるよさに気付き、活動を広げていくことができた。また、自分たちで新聞紙を細長く破いたものや地域の砂などの材料を「たからもの」と位置付けることで、材料を大切に扱いながら活動に取り組むことができた。

(2) 表したいことや表し方を考え、広げるための授業づくり

題材1、2ともに活動の最初の段階では活動が停滞してしまう児童が数名いた。そこで、2時間目の最初に前時の活動を振り返り、工夫したところやおすすめのところを紹介し合う時間を設けた。友達の表し方を参考にしながら活動を始めることで、題材1では手の届く範囲で活動していた児童が周りにある机やイスを使って带状に紙をつなぎ始めたり、題材2では指先だけで表していた児童が手のひらや足も使って表し始めたりと、自分のイメージを膨らませて表し方を工夫しながら活動を広げていくことができた。そして、活動中は児童が互いに自由にかかわることができるような場を設定した。それにより、友達の活動とつながり、大きく、長く、広く表していくことの面白さや楽しさにも気付くことができた。また、活動中に児童の様子を観察し、その場で気付いた工夫や児童のつぶやきを教師が随時取り上げ、言葉かけをしていくことも活動が停滞してしまう児童にとっては有効であった。

(3) 自分や友達の工夫や表現のよさに気付く鑑賞の時間の工夫

鑑賞の時間には、「自分が工夫したところ」「友達のいいなと思うところ」の2つの視点を中心に振り返りを行った。題材1では、鑑賞を行う前に教室全体にクモの巣のように張り巡らされた带状の紙の全体像を離れたところから俯瞰して見せた。そして実際に中に入らせて、上下左右様々な角度から見せたことが、紙のつなぎ方の工夫等、自分の表現や友達の工夫のよさを見つける手立てとなった。題材2では、砂の性質上、できあがった形はすぐに消えてしまう。そこで、児童が工夫して表している様子やできた形をその場で写真や動画で撮影して残しておくことで、学習の振り返りや鑑賞の際に大変有効であった。題材1・2ともに自分の工夫したところを伝え合い、友達からの「ここがいいな」「まねしてみたい」との言葉から、自分の工夫や表し方のよさを再発見し、自らの表現に自信をもてたことが、表現の意欲へとつながってきている。

4 おわりに

様々な材料に触れ、素材のよさや特徴を十分に知った上で活動に取り組むことが、児童の発想や構想につながりや広がりをもたせられるのだと実感できた。また、地域の特徴を生かし、自然の材料も効果的に取り入れていくことで、地域や自然を大切にすることを育てていくことにつながるのではないかと思う。今後も児童が深く材料とかかわる体験を大切にしたい。そして、豊かに発想や構想をしながら自らつくりだす喜びを味わう授業づくりをめざし、さらに研究を進めていきたい。